

に而、一人は相果、一人は未死切不申有之旨及斷に付、御注進申上候。以上。

丑七月廿二日

上野村惣右衛門

本保才三郎殿

山崎久兵衛殿

按ずるに、右注進書にて見れば、地藏は三昧の地藏にて、此の時代は未だ人家は無かりしと聞ゆ。土川除は、延寶の金澤圖に、犀川の川上なる堤防をば、石川除或は土川除と記載すれば、石を以て積み建てたるを石川除と稱し、土を以て築きたるをば土川除と稱せし事知られけり。さて其の川除町地と成るにより、町名の如く呼びけるものなるべし。

○石那坂堡址

加邦録に云ふ。本源寺尾山にありし頃は、樋口何某は高垣に居し、左近將監と云ふ者は椿原に居し、何某はいし那坂に居して、各我意を振ふ。いし那坂は浅野川土川除の邊也。と見ゆ、又同記に、昔田井村劔先辻にありしを、今の地へ移轉の時、天神の宮地椿原・いしな坂・高垣の壘跡之内可然

とて、ト問しけるに、椿原吉兆の神託ありて、椿原の地に鎮祭すとあり。

○鈴見橋

此の橋は浅野川上流の渡し橋にて、鈴見村への往來なり。故に鈴見橋と呼べり。

昭和九年四月十一日印刷  
昭和九年四月十五日發行

——金澤古蹟志 第十一編——  
非賣品

金澤文化協會代表者

發行者 中 島 德 太 郎

金澤市殿町六十五

印刷者 高 橋 覺 吉

金澤市高岡町九〇

印刷所 明治印刷株式會社

金澤市高岡町九〇

發行所 金澤文化協會

金澤市立圖書館内  
電話一、九六〇番  
振替金澤二五二六番

